

クリンソウ（九輪草）サクラソウ科サクラソウ属 *花期＝4～6月

別名・七階草・七重草・宝塔華。名前の由来＝仏閣の屋根に飾りである「九輪」に花の咲き方が似ているので。日本の固有種耐寒性多年草、冬でも葉は枯れずにロゼット状になり生えている、日本での分布、北海道、本州、四国、水辺を好みやや湿り気のある半日陰、木漏れ日が入るような環境を好む。**花言葉**＝幸福を重ねる・物思い・物覚えの良さ、少年時代の希望<**花の特徴**>地上から伸びた花茎の先に数段(約5～6段)輪生に咲く花弁は5裂<**葉の特徴**>根際の葉は大きく20～40cmになるへら形でロゼットになる。葉柄が紅色を帯びる。アルゲンという毒を含んでいるので草食動物は忌避する。



フタリシズカ（二人静）センリョウ科チャラン属 *花期＝4～6月

名前の由来＝源義経の愛妻「静御前」とその幽霊が舞う様子を描いた謡曲「二人静」「しずやしず くずのおだまき くり返し昔を今に なすよしもがな」と舞う姿にちなんでの命名。高さ20～60cmになる多年草、葉は上部に2～3対がやや間隔を開けて対生、細かい鋸歯がある、花は普通2個がおおいが1個3～5個つくのもある、花糸は短くヒトリシズカば様に糸状にならない内側に曲がり雌蕊を抱く



ヒトリシズカ花弁の違い

***花言葉**＝「いつまでも一緒に」義経と静御前の気持ちを現したものです。誕生花＝

3/13 5/26 5/30

ギンラン（銀蘭）ラン科キンラン属 *花期＝4～5月

日本に野生するランの1種の地生の多年草、樹木と菌根菌の関係で共生しているので栽培することは難しい。**名前の由来**＝黄色の花のキンランに対し白色の花であるので「ギンラン」と。明るい林内に生える、高さ10～30cm、葉は3～6枚付く互生する単葉で長さ3～5cm、巾1～3cm狭長楕円形で全縁、葉の基部は茎を抱く、花は数個付けるが半開程度にしか開かない。**花言葉**＝おとなしい貴婦人 そら組の女性にぴったり当てはまる花ですね・・・



クルマムグラ（車葎）アカネ科ヤエムグラ属 *花期＝6～7月

名前の由来＝6枚の輪生している葉を馬車のや輻（や）（車輪の中心部から放射状に出ている細長い棒）に見立てて命名、ムグラ（葎）とは草むら、藪の意味、**花言葉**は無い、林内に生える多年草、高さ20～40cm、茎は四角で陵がある、葉は輪生で基本的には6枚、5枚、7～8枚のものもある、花は茎の先に1～3個集散花序を出し数個から数十箇まばらに白色4弁花をつける。



カラスビシャク（烏柄杓）サトイモ科ハンゲ属 *花期＝5～6月

名前の由来＝仏炎苞を柄杓に見立て、人が使うには小さい、鳥が使うのには良いだろうと言う事で。根の球根は半夏（はんげ）と言い生薬に用いられた、鎮吐作用があり、半夏湯（はんげとう）の漢方薬に使われる、此の球根を売ってへそくりを貯めめたことから別名で「へそくり」**花言葉**＝「心落ち着けて」<**花の特徴**>花茎は葉の根元から分かれ葉より高くなり先端に長さ6～7cmの筒状のやや開いた緑色の苞（物炎苞）を付ける仏炎苞に包まれる様にして棒状の肉穂花序（花軸が多肉科して花の表面に密生したもの）を出す。<**葉の特徴**>葉柄があつて根元から立ち上がる、3枚の小葉が1組の葉を2～3枚付ける、長い楕円形で咲が尖る、葉柄の中ごろにムカゴを付ける。



オヘイイチゴ（雄蛇苺）バラ科キジムシロ属 *花期＝4～6月

名前の由来＝諸説ある、蛇の出そうな場所に生えている、ヘイイチゴより大型の苺又、ヘイイチゴを食べる小動物を蛇が狙うので、その蛇苺より大型だから雄蛇苺の説混生はは5枚の掌状複葉、茎葉は3出複葉、花は黄色の5弁花、地を這い茎を伸ばして節から根を出す、葉は煎じて虫刺され等に効く薬効がある***花言葉**＝「忍耐強い」



ガマズミ（筵薺）レンプクソウ科ガマズミ属 *花期＝5～6月

名前の由来＝諸説ある、鎌の柄に使われた事から「ガマ（鎌）」酸っぱい実を付けるので「ズミ（酸実）」の説、マタギが雪山」で食べるものが無くなると、ガマズミの実を探し食べ休めた、故に山の神からの授かり物として「神の実」が語源の説、日本を代表する落葉樹、白い小さな花を多数つけ、秋には赤く熟した実は、果実酒や大根の赤漬に利用、鳥や猿も好んで食べる、ポリフェノールを多く含み動脈硬化の予防、**花言葉**＝結合・私を無視しないで・私を見て

